

## 新函館市における歴史遺産・土木遺産をめぐるツアーに参加して

北海道技術士センター 道南技術士協議会

吉田 一雄

上下水道部門：下水道

### 1. はじめに

2004年12月1日、合併特例法に基づく合併としては、北海道として初めて函館市と近隣4町村とが合併しました。旧函館市には函館山をはじめ、赤レンガ倉庫、五稜郭、元町界隈、湯の川トラピスチヌなどの多くの歴史遺産が知られていますが、今回合併した新函館市における土木遺産、歴史遺産については、ごく一部のみにしか知られていないものが多くあります。

そこでこのたび、新函館市の戸井、恵山、楳法華、そして南茅部に点在する歴史遺産、産業遺産、土木遺産についての研修ツアーを函館工業高等専門学校、はこだて観光情報学会の協力を得まして開催いたしました。この研修を通じて道南の技術史の再認識を図り、ひいては新函館市の観光資源の発掘につながるのであれば大変喜ばしいものだと考えております。

### 2. 研修ツアー概要

開催日時 2005年10月8日～9日

研修日程

第一日 志海苔館、戸井線遺構、袋澗、戸井郷土館、戸井砲台跡  
古武井溶鉱炉跡、恵山郷土館、恵山貝塚、大謀網発祥地  
ひろめ荘泊

第二日 大船遺跡、三味線滝、黒羽尻トンネル、大沼電鉄第一発電所、第二発電所、  
第三発電所、城岱牧場、七飯町歴史館、赤松街道

講師

葦澤憲吉 函館工業高等専門学校 教授（環境都市工学）

中村和之 函館工業高等専門学校 教授（歴史，人間と文明，科学技術史）

参加者

道南技術士協議会

澤村秀治 函館工業高等専門学校 助教授（環境都市工学） 技術士（建設）

外崎 忍 (株)東鵬開発 技術士（建設）

澁谷義雄 函館土木調査(株) 技術士（建設）

松田豊治 (株)ノース技研 技術士（建設）

長谷川益男 (株)マリンケミカル研究所 技術士（衛生工学）

太宰啓至 太宰技術士事務所 技術士（機械）

宮田恒夫 土質工学サービス(株) 技術士（建設）

布村重樹 (株)ノース技研 技術士（上下水道，建設，総合）

船山明彦 函館市 技術士（上下水道）

吉田一雄 函館市 技術士（上下水道）

奈良哲男 北日本技研(株) 技術士補（建設）

米谷信一 北日本技研(株)

はこだて観光情報学研究会

石川宏行 (株)NEC

高橋大介 公立はこだて未来大学院（博士課程）

佐藤悦子・坂本 渚

### 3 . 研修報告

10月9日

#### 志海苔館跡

道南十二館のひとつである。和人の館であったが、コシャマインの戦いで落城したことが記録に残っている。ただその史書といっても、松前の殿様が歴史書の書き換えしたらしく、それ以前の館の主は誰であったかは明らかではないという。

志海苔館には生活していたという痕跡がない。つまり大きな茶碗や鉢は見つかるのだが、生活に使われたと思われる道具等が見つかっておらず、志海苔館は儀式の場であったと考えられている。

また、V字で掘った薬研掘り（やげんぼり）の跡をみることができる。

昭和40年代の道路拡幅の際に銭亀が3個見つかるところから37万枚もの銭が発見された。

志海苔館のあった高台は、付近の海岸段丘とは異なる法面勾配であることから人工に掘り込んだものであることがわかる。

また、永楽通宝が出土されていないことから1491年以前の館であることが推定される。

かつて東北および北海道は、津軽安東氏の支配下にあり、松前蠣崎氏はその支配から独立したものである。



#### 戸井線遺構、袋澗

戸井線のアーチは無筋コンクリートである。無筋コンクリートでアーチを組むとした場合構造計算をすると最大支間長は1.8m程度となるらしい。また無筋コンクリートと考えられているが、実際に調べてみると無筋ではなくて竹筋コンクリートかもしれないとも考えられている。

#### 袋澗について

東北の海岸、それから北海道では日本海沿岸には袋澗はあるが、それはニシンの袋澗であり、北海道の太平洋側には袋澗があるのはめずらしいという。

袋澗は、いわしを捕ってきて、すぐに陸揚げするのではなく、網にかけたまま海においておくときの保管場所である。

この日の戸井の海はとても荒れているのに、袋澗の海面はいたって静かであることには驚く。



### 戸井郷土館

縄文時代から明治、大正、昭和、現代に至る郷土資料が陳列されている。特にアイヌ錦や、日の丸国旗からつくられた衣装が印象的である。



### 戸井砲台跡

迷彩色に彩られたかつての砲台跡は、まさに萑澤教授の言うムーミンの森のごとしである。さらに格納庫跡の上に繁茂する木々に目をやると、それは天空の城ラピュタが地上に舞い降りたの観でもある。



この地は、本州との最短の場所にあり、津軽海峡の喉下、切っ先に相当するからこそ、砲台が設置されたのであろう。

現代においても、貨物船の往来はげしい海峡にあることは、過日の根室沖の漁船がイスラエル貨物船との衝突事故をみても海峡の重要性、軍事的重要性が変わっていないということだ。

今盛んに注目を浴びている大間原発も、戸井から見て目と鼻の先の位置にあることに改めて思い知るところである。

### 古武井溶鉱炉跡

五稜郭を設計した武田斐三郎が、おなじく設計した鉄鋼の溶鉱炉跡である。そこには水路跡らしき溝や基礎跡が見られるが、恵山郷土館に再現されている溶鉱炉が本当にここにあったのかと不思議な気がする。



### 恵山郷土館

恵山郷土館には古武井溶鉱炉のミニチュアが再現されている。

### 恵山貝塚

続縄文時代といわれる時代のものであった。北海道には弥生時代がなく、その時代に相当するのがこの続縄文時代なのだそう。とくにここで出土された土器は、続縄文文化の前期を代表する貴重なもので恵山式土器といわれている。

朝鮮の白頭山からの噴火の痕跡があり、そこには火山灰が50cmも降り積もった跡から時代を推定できるというのだ。

南茅部には貝塚が少ないのだが、ここ恵山には貝塚があるのはどういう理由なのだろうか。

ふつう遺跡は、道路建設等に伴って発掘されるのが多いと思っていたが、ここは北大の先生が学術調査で発掘したものである。よくこの場所から発掘したものだ改めて驚いた。



## 大謀網発祥地

北海道民選知事田中知事が揮毫の記念碑がある。ここ黒鷲岬から海を眺めるとまさに大謀網らしき浮きをたくさん見ることができる。

大謀網とは大型の定置網で、魚が一度網に入るとなかなかそこから出ることができないような構造になっている。



## ひろめ荘泊

ひろめ荘には2種類の温泉が湧き出でており、ひとつは湯の川を思わせる食塩泉と、登別を思わせる硫黄温泉である。

朝飯は、うわさのイカ刺身の食べ放題である。



10月9日

## 大船遺跡

アスファルトが縄文時代より用いられていたらしい。アスファルトは秋田県昭和町から大船に持ってきたことまでわかっている。何に用いたかという点と勿論、道路を舗装するためではない。石器で作られたナイフの刃先と柄との間を縄で結び付けるときに接着剤として用いたという。

子供の足がたを土の板に写したものがあり、それを縄文人が記念に残したらしいことを聞いた。いつの時代にも親子の情愛の深いことを知り、縄文人の心を身近に感じるような思いをした。

現代における親子間のさまざまな事件を思うと、現代は縄文の時代より文明が進んだ時代のはずなのに、なんと心の蝕まれた時代ということになるのだろう。

竪穴式住居の痕跡からその住居には3世帯が住んでいたことがわかるというから驚きだ。それは出土された針の場所が3箇所あるということからわかるというのだ。針仕事をその住居の決められた1箇所で行うはずなのに、3箇所にわたって針が出土されたことで3世帯が住んでいたと推定されるという。



また、墓は、その村出身用の墓と、よそ者の墓とで別れていたということまでわかっている。

どうしてそのことがわかるかというと、その墓から出てきた遺体には、すべて同じ特徴があるということからわかるというのだ。特徴とは、特定の歯の一部が抜けている遺体たくさんがあり、子供が小さいときに歯を抜いておくその村の風習があったらしい。また、そこと離れた墓からは、それとは異なる特徴、つまり特定の歯の一部が抜けていないという特徴があることから、推定できるのだという。



### 三味線滝

三筋の滝だから三味線滝というのか、それとも三味線の音のようにペンペンと音がするから三味線滝というのか諸説がある。

この滝のほかに直接海に流れて落ちている滝があるということだ。



### 黒羽尻トンネル

岩というより、石と土が混在している礫質土のようだ。崩れ落ちそうである。



### 旧大沼電鉄 渡島水力 第3発電所、第2発電所、第1発電所

第3発電所は800kwの出力を持ち、昭和に設置された発電所である。

場所は、鹿部町役場のうらにある現在変電所として使用されている敷地にある。レンガづくりの建物が変電所のフェス網から垣間見ることができる。



第2発電所は900kwの出力を持ち、大正時代に設けられた発電所である。発電所そばには網の置き場がある。ただ、この発電所には水の出口が見当たらなかった。建物側壁はレンガなのに、屋根はトタンぶきの木造屋根である。屋根まで立派にするお金がなかったと思いきや、長谷川技術士いわく、爆発があった場合に、圧力が屋根を通じて逃げるようにするためであって、その際、側壁がくずれないようにしているのだという。



第1発電所は1000kwの出力を持ち、明治時代に設けられた発電所である。現在は納屋として使われており、隣地にはりっぱな牛舎がある。ここ第一発電所で発電された電気を用いて、鹿部と大沼を結ぶ電車が走っていたのかと思うと隔世の感がある。

### 城岱牧場

この日は前日の雨まじりの天気から、一転して晴天で、大野平野を一望できた。遠くは津軽海峡まで、函館山が海に浮かぶ島のようなようである。



### 七飯町歴史館

七飯官園のジオラマがあり、かつての官有農園が北海道開拓に貢献した姿を見ることができる。



### 国道5号赤松街道

黒田清隆が、明治天皇行幸の際に植えさせたものなのだそう。車もない明治初めからこんなに広い並木路を整備したのは恐れ入る。当時赤松を植えるとは言わなかったらしい。七飯官園で植林しているものを植えると言ったので、現在ある赤松街道には、黒松もあり、赤松もあり、ケヤキもあるという。



## 4. おわりに

今回のツアーは、ちょうど亀田半島を反時計回りに、産業遺産、歴史遺産を巡るツアーでした。まさに時計を反対に、時の流れを逆に回したような亀田半島に眠る歴史遺産を眠りから呼び覚ますような1泊2日でした。あらためて函館には数多くの歴史があることを知ってほしいです。雨風に晒されている歴史遺産を後世に残していく方策がないものか、観光資源として活かす方策がないものか、考えさせられる1泊2日でありました。

最後になりましたが、今回のツアーは函館工業高等専門学校(函工)の澤村助教授が企画されたものであり澤村助教授にあらためてお礼を申し上げたいと思います。葎澤教授、中村教授には講師を快くお引き受けくださいました。また、はこだて観光情報学会の佐藤悦子さんにはツアーのためにバスの協力をはじめいろいろとお力添えをいただきました。事務連絡等とりまとめを布村技術士が一手にお引き受けくださいました。

この場を借りて感謝申し上げます。

それから、大変お忙しい中多くの方々に参加していただき、また、有意義な二日間をともに参加できたことに感謝いたしまして、今回のツアー報告といたします。

